

中国の新エネルギー自動車産業における政府の介入

巖 振

キーワード：新エネルギー自動車政策、オートモビリティ移行、中央地方関係

1. 本研究の目的と背景

この研究の目的は、中国政府が新エネルギー自動車（バッテリー電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車を含む NEV）産業をどのように育成したかを理解することである。従来の自動車と比較して、NEV の最大の利点の 1 つは、温室効果ガスの排出量が少ないことである。つまり、NEV は気候変動を緩和するに重要な役割を果たせる。今の中国は最大自動車市場および最大の NEV 市場として、どのように NEV の急成長を実現したかによって、他の新興経済国の政策立案においていくつかの教唆が与えられる。

2. 研究方法

この研究は分析的枠組みとして戦略的ニッチ管理（SNM）と呼ばれる記述的な方法論を採用している。ニッチは、イノベーションが市場の選択から保護され、より強く成長するためのリソースを提供される一時的な「保護スペース」として定義される。初期の SNM 研究は、道を切り開く 3 段階のニッチイノベーションプロセスを示唆している。1) ニッチイノベーションは、初期段階（技術的ニッチ）から始まり、そこでは低価格性能比と市場競争力に苦しむ；2) 保護の下で、ニッチイノベーションが強くなり、市場競争力が高まる（市場ニッチ）；3) 最後に、それらは既にある支配技術に取って代わる（体制転換）。期待とビジョンの明確化、ソーシャルネットワークの構築、および学習プロセスを含む 3 つのプロセスが、技術的ニッチ開発を成功させるための中核として特定されている。この考え方から生み出した 5 段階のモデルは中国のケースで政策設計を評価するために採用されている。

一方、中国は権威主義中央地方政府のシステムと競合する地方と地方との関係の特徴としており、中央と地方レベルでのニッチイノベーションの発展を区別する必要がある。そのため、Raven（2005）と Van Mierlo（2002）による提案されたニッチ二段階プロセスが採用され、中央での発展はグローバルなニッチレベルにし、地方での発展は地域プロジェクトのレベルにしている。

3. まとめと結論

従来の自動車の分野で国内のイノベーション能力を構築するのに何度か失敗したことで、中央政府の自信は薄れた。気候変動とエネルギー安全保障からの圧力と、NEV での競争に勝つ機会があることが相まって、中国の NEV への野心的な動きを説明することができる。ただし、地方実験間の調整と幅広いエンドユーザーの関与にほとんど注意を払わないトップダウンのプラクティスは、NEV イノベーションのより広範な普及のための最大の障壁となるだろう。この事例はまた、中国の中央と地方とのダイナミクスがどのように地方リーダーの間で競争をもたらしたかを示し、ローカル・ニッチ相互作用に関するさらなる研究のためのフロアを開くものである。